

製造業界向け

Core System* Modernization

コアシステム・モダナイゼーション

ユーザー中心設計でアプローチする
現場が使いやすい業務システムの設計・開発



MAKE AWESOME THINGS THAT MATTER

Our Vision

誰もが価値創造に 夢中になれる世界

Create a world where everyone has the freedom
to make awesome things that matter.

社名に含まれる“Sun”はまさに「太陽」。地球上のすべての生命を育むインフラです。革新的なサービスや、新しいイノベーターの「種」を、私たちの光で照らし、それらを育む最強のインフラになることを目指しています。

Sun*が価値創造をするためのインフラとなることで、全人類が生まれた時から持っているクリエイティブへの情熱を呼び起こし「誰もが価値創造に夢中になれる世界」を実現させます。

Our Mission

本気で課題に挑む人たちと事業を通して社会に ポジティブなアップデートを仕掛けていくこと

Create radical products and businesses with
people who actually care about what they do.

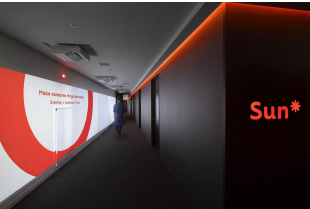
“*(Asterisk)”は、多くのプログラミング言語で掛け算を表す記号です。スタートアップや大企業の垣根を超え、価値創造に最適なチームを編成し、本気で社会課題に挑むヒト・モノ・コトとのコラボレーションを通じて、様々な産業のデジタル化を促進することで、社会にポジティブなアップデートを仕掛けていきます。

会社概要

社名	株式会社Sun Asterisk 英語社名 Sun* Inc.
設立日	2013年3月1日
従業員数	約 2,116名 グループ全体
関連会社	Sun Asterisk : 448 Sun Asterisk Vietnam : 1,396 Sun Asterisk Software Development : 48 Sun terras : 111 NEWh : 23 Trys : 90 2024年12月末時点（有期雇用等含む）

本社所在地	東京都千代田区大手町
事業内容	デジタル・クリエイティブスタジオ事業 4ヶ国6都市に拠点※
資本金等	33億9,419万円 資本準備金含む
売上	135.6億円 2024年12月期実績

※日本（東京）ベトナム（ハノイ、ダナン、ホーチミン）＋パートナー拠点 フィリピン（セブ）＋パートナー拠点 カンボジア（プノンペン）



会社概要

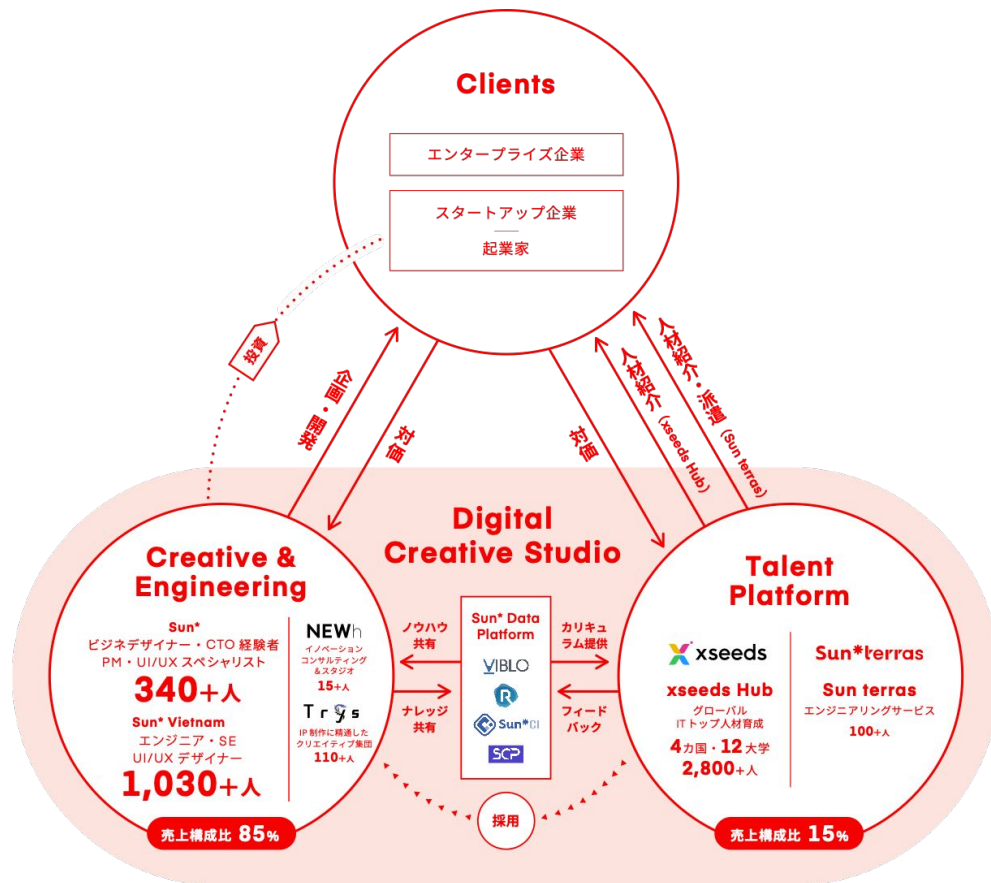
事業創造から サービスの成長まで 包括的に支援

Creative & Engineering

テック、デザイン、ビジネスの専門チームによる
事業共創の新規事業・プロダクト開発支援

Talent Platform

国内外におけるIT人材の発掘・育成・紹介



デジタル・クリエイティブスタジオの機能

多国籍で多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルが、
価値創造プロセスの中で足りない機能を提供し、クライアントとともに事業を共創します。

多様なバックグラウンドを持つプロフェッショナルが多数在籍



プロフェッショナル

ビジネスコンサルタント	事業開発ディレクター	ビジネスデザイナー
UI/UX デザイナー	UIプランナー	アートディレクター
CTO	プロジェクトマネージャー	フルスタックエンジニア

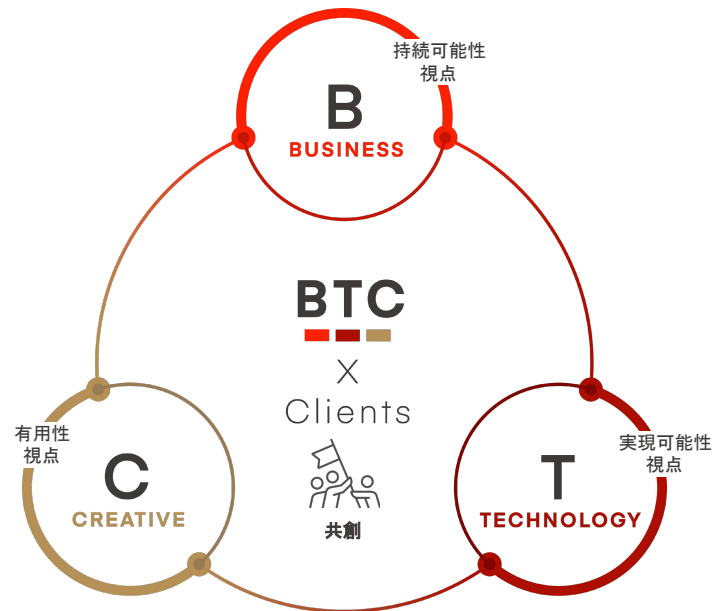
豊富な実績から蓄積された事業創造に必要な手法・ノウハウ



手法・ノウハウ

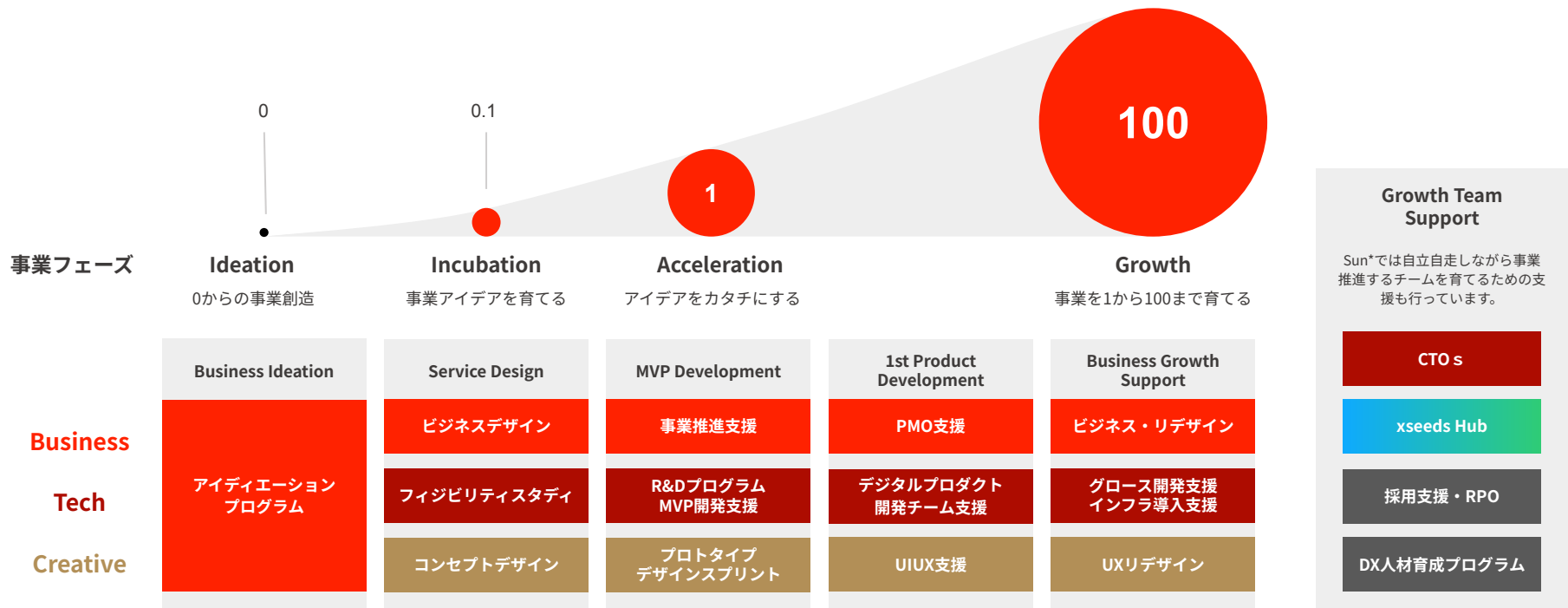
デザイン思考	リーンスタートアップ	ユーザー中心設計
アジャイル	DevOps	CI/CD
AI	Blockchain	NFT

Business, Creative, Technologyの3つの視点による
クライアントとの事業共創



あらゆる事業の、あらゆるフェーズを伴走するチーム

あらゆる事業創造を0から100のフェーズまで伴走しながら支援します。
刻々と変わる事業の状況に対してBusiness, Tech, Creativeのエキスパートで最適なチームを組み、
事業のフェーズにあわせて柔軟な体制で価値創造をサポートします。



これまでの支援実績

エンタープライズの新規事業、DX、システム開発からスタートアップまで
クライアントのニーズに合わせて、事業創出から事業成長までを一貫してサポートします。



JALマイルライフ
住信SBIネット銀行／日本航空



楽曲管理システム KENDRIX
JASRAC



膝栗毛 (HIZAKURIGE)
三菱地所



日産レンタカー公式アプリ
日産カーレンタルソリューション



WMS・TMSを機能補完するシステム
ダイキン工業



GLP ALFALINK 公式アプリ
日本GLP / モノフル



「雲の宇宙船」に関連した基幹システム
日本瓦斯 (ニチガス)



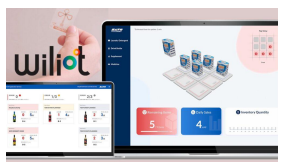
elgana (エルガナ)
NTTビジネスソリューションズ



sumgoo (スムグー)
パナソニック



All Right/T&D保険グループ
ピアコネ



IoTクラウドシステム
サトー



北欧、暮らしの道具店
クラシコム

クライアント数

550+



物流



小売



飲食



金融



医療



教育



不動産



エンタメ



広告



ファッション



生活



セキュリティ

プロダクト数

1000+



WEB



スマートフォン



IoT



AI



CLOUD



BLOCK
CHAIN



Web3

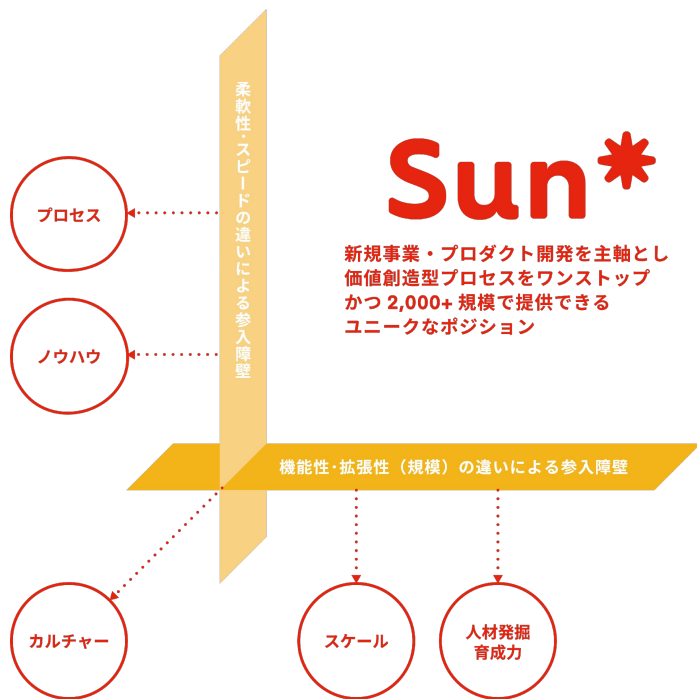
Sun*が提唱するDXの2つの要素

Sun*グループ全体で、課題解決型のDXから価値創造型DXまで幅広く対応できることが特徴です。

分類	デジタイゼーション	デジタライゼーション
目的	業務プロセスのデジタル化 コストの最適化 基幹システム刷新などによる業務の効率化	事業のデジタル化 レベニューの成長 デジタル企業へのアップデート
求められる事	安定と品質	柔軟性とスピード
手法	課題解決型 課題抽出、業務フロー整理、要件定義 システム設計、ウォーターフォール開発 システム導入と保守運用、効果測定と改善	価値創造型 デザインシンキング等によるアイデア創出 リーン・スタートアップ、MVP開発 アジャイル開発、高速DevOps体制と運用

Sun*のユニークネス・強み

新規事業・プロダクト開発をワンストップで提供できるユニークなポジションを築いています。



プロセス・ノウハウ

デザインシンキング、リーンスタートアップ、アジャイルアプローチの開発で
繰り返し洗練して来た価値創造のプロセスと、
新規事業・プロダクトを主軸に400超の開発で得たノウハウを蓄積した、
データプラットフォームによる再現性

カルチャー

本気で社会課題に挑むヒト・モノ・コトとのコラボレーションを加速させ、「価
値創造に夢中になれる」オープンで強固なカルチャー

スケーラビリティ

1,500名超のB・T・Cのプロフェッショナルが所属
価値創造型のプロセス・ノウハウを活用し、教育機関と連携した育成のエ
コシステム構築による才能の発掘と育成力

製造業におけるDX推進の必要性

製造業全体の課題と、DX推進のメリット

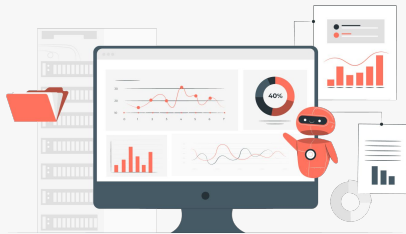
DX推進により、効率的なオペレーション・コスト削減・品質向上を実現し、変化に柔軟かつ迅速に対応できる組織へと変化します。

① 人材不足

国内の製造業就業者数は、2002年の1,202万人から2020年には1,045万人と、この20年間で約157万人減の現状であり、現在も減少し続けている



AI・データ活用・自動化による
人的リソースの補完



② 技能継承

熟練の「職人技」を持つ従業員が多い一方、短期間での育成が難しく、継承が進まないまま退職により技能が失われる恐れがある



情報の視覚化による
技術や業務の属人化防止



③ 設備老朽化

レガシー設備の多い製造業では、安定稼働が難しく、保守費用も高額。最新技術への対応が不十分で、生産性の低い業務に陥りやすい

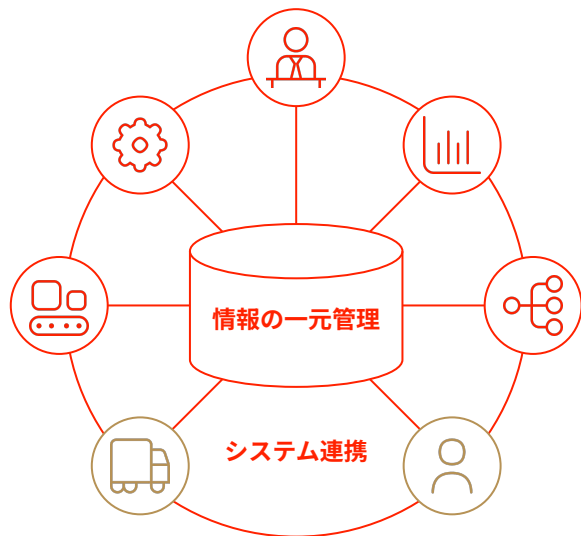


最新技術導入による
生産性効率の向上



製造業におけるステークホルダーごとのDX実現時のメリット

業務効率化からサプライチェーンの最適化まで、各ステークホルダーに価値を提供し、企業の成長を加速させます



社内

経営陣

データドリブンな意思決定が可能に

情報システム部門

各部門と連携し、共創するIT戦略部門へ進化

製造部門

手順をデジタル化し標準化・再現性を確保

営業部門

顧客情報を一元管理し、データに基づく提案へ

管理部門

業務フロー統合とリアルタイムデータによる可視化

社外

サプライヤー

EDI・在庫連携でリードタイム短縮

クライアント

顧客情報と業務データ統合による品質平準化

ステークホルダーごとの「課題」とDX実現時の「メリット」詳細

社内



経営陣 (企業戦略・投資判断)

感覚・経験に依存した経営判断 ▶ データドリブンな意思決定が可能に
中長期の戦略が現場に落ちず、形骸化 ▶ 全社の業務データ統合による整合的な戦略実行
外部環境変化に迅速に対応できない ▶ 経営ダッシュボード等による即時の把握と判断



情報システム部門 (仕組み・ツールの設計と支援)

他部門との距離があり“道具屋”扱い ▶ 各部門と連携し、共創するIT戦略部門へ進化
老朽化したシステムがブラックボックス化 ▶ モダナイズによる可視化と保守性の向上
導入後の運用フェーズで疲弊 ▶ IT運用の自動化・標準化で戦略領域へリソース移行の把握と判断



製造部門 (製品を生産、モノづくり)

作業属人化で品質や安全性にばらつき発生 ▶ 手順をデジタル化し標準化・再現性を確保
稼働状況が不明で生産計画に遅れが生じる ▶ IoTで稼働を可視化しリアルタイムに調整
ノウハウが属人化し人材育成が進まない ▶ 作業ログ・動画でマニュアル化し継承促進



営業部門 (収益の生命線)

顧客ニーズ把握が属人的で提案の質に差 ▶ 顧客情報を一元管理し、データに基づく提案へ
製造連携が遅く納期・内容ミスが発生 ▶ 営業・製造をシステム連携し一気通貫化
フォローや履歴共有が不十分で満足度低下 ▶ CRMで共有・即応体制を構築し改善



管理部門 (組織運営、コスト・人材管理)

各部門との連携が乏しく、状況把握に遅延 ▶ 業務フロー統合とリアルタイムデータによる可視化
勤怠・人件費・原価計算が煩雑で非効率 ▶ ERP統合による自動集計と予実管理の高速化
人材評価が感覚的・主観的になる ▶ 業務ログ・スキルデータに基づいた客観的評価が可能に

社外



サプライヤー (調達・供給の upstream)

発注・納品プロセスが属人的で遅延発生 ▶ EDI・在庫連携でリードタイム短縮
納期や品質の認識ズレで信頼低下 ▶ 情報連携強化で共通認識の即時化
価格交渉のみで関係が消耗戦に ▶ データ共有による共創型パートナーシップへ転換



クライアント (製品・サービスの downstream)

サービス品質が担当者次第で一貫性がない ▶ 顧客情報と業務データ統合による品質平準化
問い合わせ対応に時間がかかる ▶ 顧客接点のデジタル化で即応・セルフ対応も可能に
顧客ニーズが把握できず提案が的外れ ▶ データ分析に基づくパーソナライズ提案が可能に

Sun*のアプローチ

業務システム刷新が製造業DXを牽引する4つの理由

本質的なDXとは、単なるIT導入ではなく、業務の仕組みを根本から見直し、効率化・高度化することにあります。その起点として、業務システムの刷新は企業競争力の鍵を握る重要なステップです。

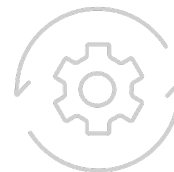
1 競争力を生む

従来の業務システムを刷新することで、データの可視化やプロセスの自動化が可能になり、迅速な意思決定を支援します。これにより、競争優位性が生まれ、効率的な生産管理や柔軟な対応が可能になります。



2 全体を最適化する

部門間での情報共有やリアルタイムなデータ連携が実現され、製造工程全体の最適化が進みます。在庫管理、納期管理、品質管理など、各業務の効率化が一貫した形で実現されます。



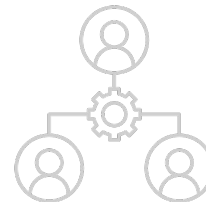
3 持続的な成長を支える

成長に伴い、業務システムが継続的な拡張に対応できるようになることで、企業の持続可能な成長を支えます。未来の変化や新たな技術にも柔軟に対応できる基盤を築けることが、DXの成功に不可欠です。



4 組織文化を変える

システム刷新は、単に技術的な変革だけでなく、企業文化や従業員の働き方にも大きな影響を与えます。DX推進が企業全体に浸透し、デジタル化の意識と技術向上を促進させます。



業務システムが使いにくいと感じる原因

業務システムは、業務効率化の切り札として期待される一方で、その使い勝手の悪さが問題視されています。高額な費用と労力を投じてシステムを導入しても、使い勝手の問題から現場で十分に活用されず、期待した効果が得られないケースも少なくありません。

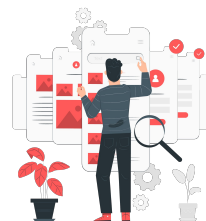
操作性が悪く直感的でない

複雑なUIにより手間や認知負荷が増えると入力ミスや手順漏れが起こりやすく、業務の遅延やトラブルにつながるリスクがあります。



情報過多により画面が複雑

現場では迅速な判断が求められますが、複雑な画面は判断スピードを妨げ、操作ミスや学習コストの増加につながります。



カスタマイズ性の不足

パッケージ製品は自社の業務に合わないことが多く、「業務に合っていない」と感じ、システム活用意欲が下がる原因になります。



エラーメッセージが不親切。エラーが多い

頻繁に発生するエラーや不具合は、現場にとって大きなストレスで、システムへの信頼や利用意欲の低下を招いています。



システムの動作が遅い。 複数システムの連携が不十分

システムの応答が遅いことや、複数システムの同時利用は、業務全体の効率を大きく下げる要因になります。



現場起点の業務再構築を通じて、 業務システムのモダナイゼーションを推進

変化に強い業務システムへ

現場のユーザー視点で、属人化や非効率的な業務を
棚卸し・再設計し、迷わず使えるUI/UXでシステムを構築。
スクラッチ開発・既存改修・サービス統合まで柔軟に対応
し、環境や要件の変化にも強い、業務システムの設計・
開発を支援します。



Sun*が実践する、ユーザー中心設計に基づいた業務システム開発のアプローチ

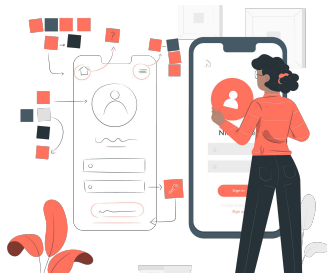
業務システムの課題解決の鍵は、徹底したユーザー中心設計（HCD: Human-Centered Design）の考え方を取り入れることです。製造業の現場にHCDを適用し、従業員の使いやすさに焦点を当てたアプローチが重要とSun*では考えています。

利用者の業務と ニーズの深い理解



従業員の業務内容やニーズを把握することからはじめます。現場を観察・調査し、ユーザーインタビューを行うことで課題点を洗い出します。製造現場特有の制約も考慮し、求められている要件を抽出します。

UXリサーチに基づく設計と プロトタイピング



理想のユーザー体験を定義し、プロトタイプを作成します。ユーザーテストで現場の声を拾い、デザインに反映します。こうした検証と改善を反復することで、現場に合ったシステムを開発できます。

管理画面デザインの ベストプラクティス



業務システムのUI/UX検討の際、業務効率を高める体験設計はもちろん、新システムに早く慣れてもらうために学習コストの低い画面を目指し、ユーザビリティやアクセシビリティに配慮した設計を行います。

継続的な改善



業務システムは導入して終わりではありません。継続的に利用者からのフィードバックを収集し、アジャイルに改善を重ねることでPDCAを回し、現場の要望とシステムが提供する価値のズレを最小化します。

開発における、Sun*が重視するポイント

一般的な開発プロセスにおいて、Sun*では徹底したユーザー目線でアプリケーションのUI/UX設計と実装を心掛けることを最大の強みとしています。

一般的なアプローチ

① プロジェクト進行

ウォーターフォール型「要件→設計→実装→テスト→リリース」の順で進行するため、UI/UXは後回しになりがち。

② ユーザーの関与

ユーザー観点の確認は要件定義と受け入れテストのタイミングで実施するため、開発途中のフィードバック機会がほぼ無い。

③ 期待値の具現化

初期の要件で設計・開発が進行し、途中で期待値のすり合わせがされないことが多く、納品時にギャップが生じやすい。

Sun*のアプローチ

UI/UX起点の開発では、ユーザー体験を軸にプロジェクトを進行。
ユーザー調査やフィードバックをプロジェクト初期から取り入れ、UIとUXの改善を繰り返しながらプロダクトを設計。

ユーザー調査やユーザビリティテストをプロジェクト全体を通じて継続的に実施するため、都度ユーザーニーズをキャッチアップ可能。
得たフィードバックをもとに、実用性の高いシステムを設計。

ユーザーニーズ・インサイトから、理想とする業務フローを描き、画面設計に落とし込む。**デザイナーがシステム設計の上流から関わることで、ユーザー目線で直感的に使える業務システムを提供。**

開発における、Sun*が重視するポイント

一般的な開発プロセスにおいて、Sun*では徹底したユーザー目線でアプリケーションのUI/UX設計と実装を心掛けることを最大の強みとしています。

一般的なアプローチ

④ リスク管理

機能や移管に関するリスクは洗い出すが、現場のユーザー視点が抜け漏れ、あとから顕在化することが多く、変更コストが発生する。

⑤ 成果物の品質担保

機能テスト・結合テストが中心のため、UI/UXや使いやすさの評価は後回しになったり、スコープ外とされることがある。

⑥ スケジュール予算

初期段階でスコープ・予算・納期を固定するため、要件変更などは追加見積・稟議が必須。そのため途中変更の柔軟性は低くなりがち。

Sun*のアプローチ

ユーザーフィードバックを取り入れながら画面設計を随時見直すため、実装完了後に大きな課題が浮き彫りになるリスクを抑えられる。
仕様変更に伴うコスト増やプロジェクトの遅延といった問題も起こりにくくなる。

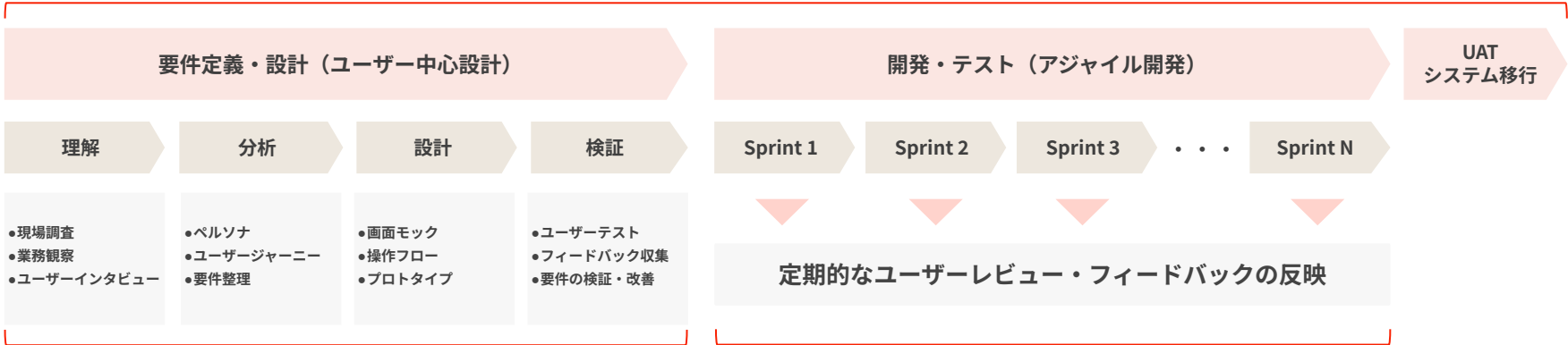
ユーザビリティやアクセシビリティに配慮した設計により、リニューアルしたシステムでもスムーズに導入・定着が可能。新たな業務フローの導入が業務効率の向上につながり、真に実効性のあるシステムを導入できる。

要件の変更が発生した場合でも、**デザインおよび実装をアジャイルの思想とプロセスに基づいて進行しているため、プロジェクトの状況に応じてスケジュールや予算を柔軟に調整することが可能。**

ウォーターフォールとアジャイル、両輪で進めるプロジェクト進行

プロジェクト全体はウォーターフォール型で進行しつつ、要件定義ではユーザー中心設計を採用し、ユーザーの声を都度反映。開発はアジャイルを基本としながら、各スプリントをウォーターフォール型で進めるため、柔軟性と安定性を両立できるのがSun*ならではのアプローチです。

ウォーターフォール型で全体計画の確実性を担保



ユーザー中心設計により現場の声を収集・反映

アジャイル開発により柔軟性を確保

Sun*の
強み

1. ユーザー中心設計によるしっかりした要件定義

デザイナーによるユーザー中心設計のアプローチで、現場ユーザーの業務フローと実際のニーズを深く理解し、ペルソナ設計と業務シナリオの可視化を行うことで、真に使えるシステムの土台を構築します。

2. アジャイルをベースに、機能開発はウォーターフォール型で品質を担保

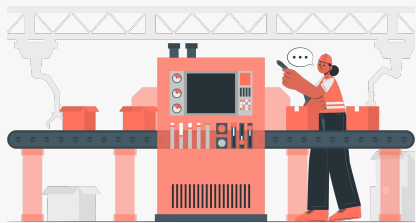
開発工程でユーザーからのフィードバックを反映させやすい、アジャイル開発のスタイルを採用。各スプリント内は要件・設計・実装・テストを順に進めるミニ・ウォーターフォール型で進行することで、全体のスピード感と、各工程の安定性・品質を両立します。

業務システム刷新においてSun*が担う役割

業務の棚卸しと可視化、業務フローの再設計、現場のユーザー視点でのUI/UXの最適化、柔軟な開発対応までを、現場視点と技術の両面からアプローチします。

① 既存業務の棚卸しと再設計

属人化や手作業の業務を洗い出し、
効率性・柔軟性の高い業務フローに
再構築



② 現場視点のUI/UX設計

実際のユーザー行動や利用環境に
根ざしたUI設計で、現場が迷わず
使えるシステムを実現



③ 柔軟な実装スタイル

スクラッチ開発だけでなく、既存
システムの改修や他サービスとの
連携も含め、最適な形で実現



ご支援アプローチの例

①既存業務の棚卸しと再設計

②現場視点のUI/UX設計

③柔軟な実装スタイル

◆要件定義・設計（ユーザー中心設計）

理解

分析

設計

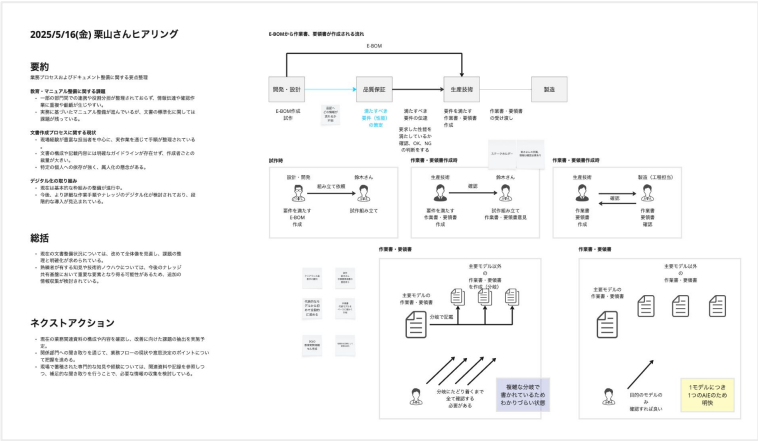
検証

現場社員へのヒアリングや現場訪問を通じて、ユーザーニーズや課題を理解する

実際に現場へ足を運び、社員へのヒアリングや業務観察を通じて、日々の業務の流れや課題の本質を把握します。業務の全体像だけでなく、ツールの使われ方や非効率なオペレーションなど、ユーザーが抱える潜在的なニーズを丁寧に掘り起こすことで、設計に活かせるリアルなインサイトを得ます。



現場ヒアリング



インタビュー結果のすり合わせ

※ 貴社のチームやDX推進フェーズにより、提供サービスの内容や、プロジェクトのアサインする専門家をカスタマイズさせていただきます。

ご支援アプローチの例

◆要件定義・設計（ユーザー中心設計）

理解

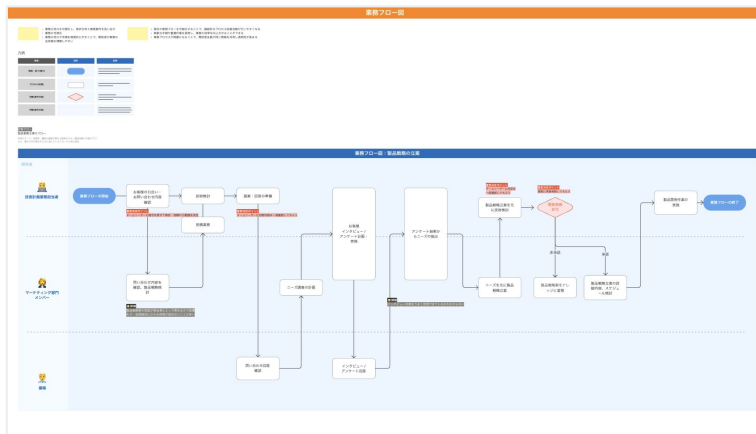
分析

設計

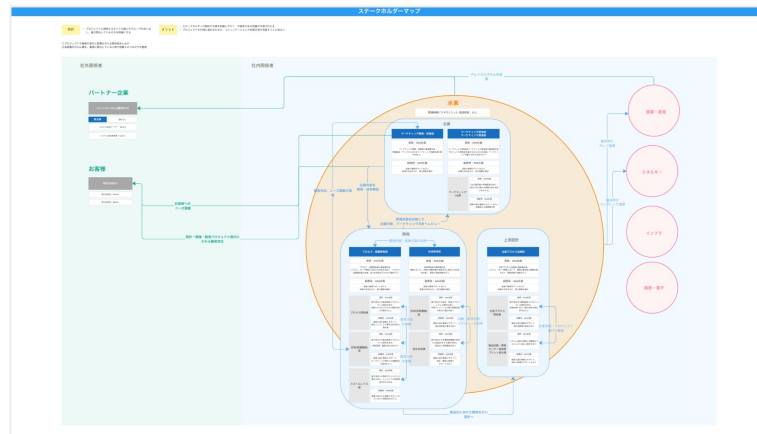
検証

現場リサーチを経て可視化された実態と理想業務とのギャップのある課題を明らかにする

現場調査から得た情報を、業務フロー図やステークホルダーマップとして構造的に可視化。ペルソナの設定や課題の重み付けを行い、理想の業務プロセスとのギャップが大きいポイントを重点的に抽出します。ユーザー体験の設計に直結する本質的な課題を明らかにし、業務システムの設計要求・要件のベースを築きます。



業務フロー図



ステークホルダーマップ

※ 貴社のチームやDX推進フェーズにより、提供サービスの内容や、プロジェクトのアサインする専門家をカスタマイズさせていただきます。

ご支援アプローチの例

◆要件定義・設計（ユーザー中心設計）

理解

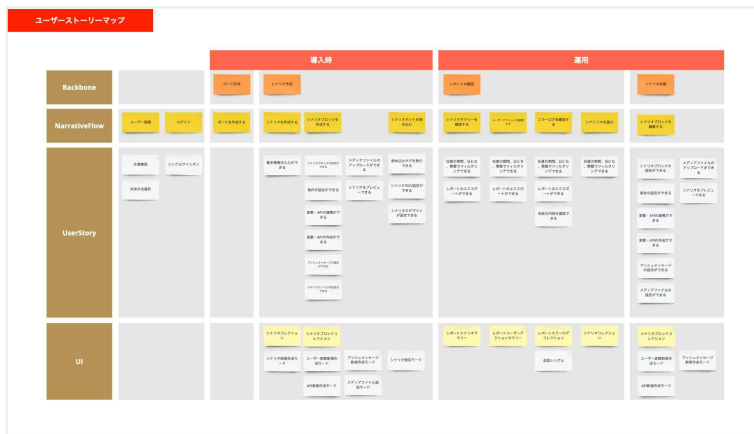
分析

設計

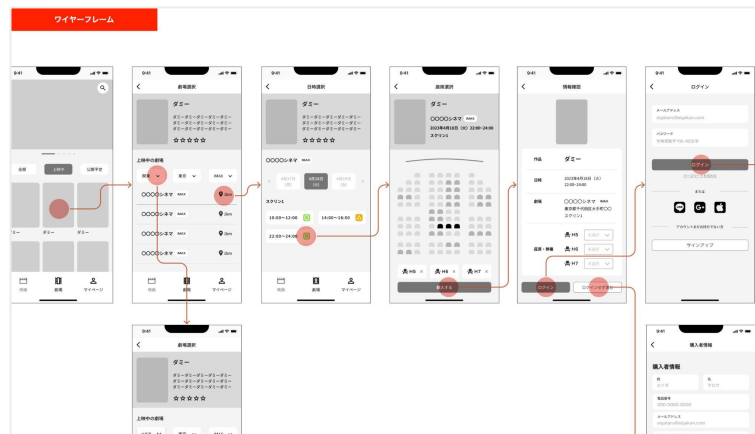
検証

ユーザーストーリーから理想の業務体験を設計し、具体的な画面へと落とし込む

設定したペルソナと業務における課題をもとに、ユーザーストーリーマップを作成。業務シーンごとに必要な機能や情報の流れを整理し、具体的なUIモックアップを作成します。さらに画面同士をつなげたプロトタイプを通じて、業務の流れを視覚的・体感的に再現し、実業務に即した操作性を意識した設計を進めます。



ユーザーストーリーマップ



画面設計

※ 貴社のチームやDX推進フェーズにより、提供サービスの内容や、プロジェクトのアサインする専門家をカスタマイズさせていただきます。

ご支援アプローチの例

要件定義・設計（ユーザー中心設計）

理解

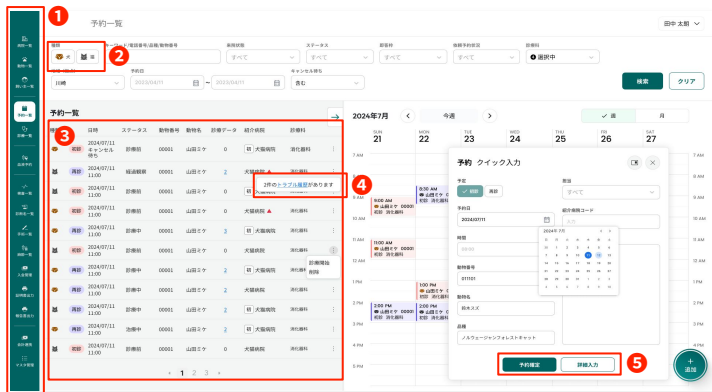
分析

設計

検証

数多くのデジタルプロダクトを手掛けてきた当社が考える、業務システムの画面設計のベストプラクティスを一部ご紹介します。

例：動物病院向け電子カルテシステム

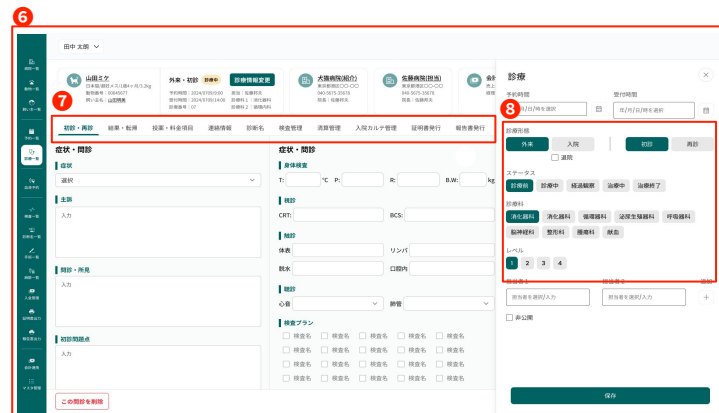


- ① 直感的なナビゲーション、固定エリアはコンパクトに
- ② ショートカットの用意
- ③ テーブル内の情報を見やすくする
- ④ わかりやすいエラーメッセージ
- ⑤ ボタンの優先度をつける、ユーザー視点のボタンラベリング

①既存業務の棚卸しと再設計

②現場視点のUI/UX設計

③柔軟な実装スタイル



- ⑥ リキッドレイアウトにする
- ⑦ 多層構造は避け、構造をできるだけシンプルにする
- ⑧ 適切に情報をグルーピングして、選択肢を増やしすぎない

ご支援アプローチの例

◆要件定義・設計（ユーザー中心設計）

理解

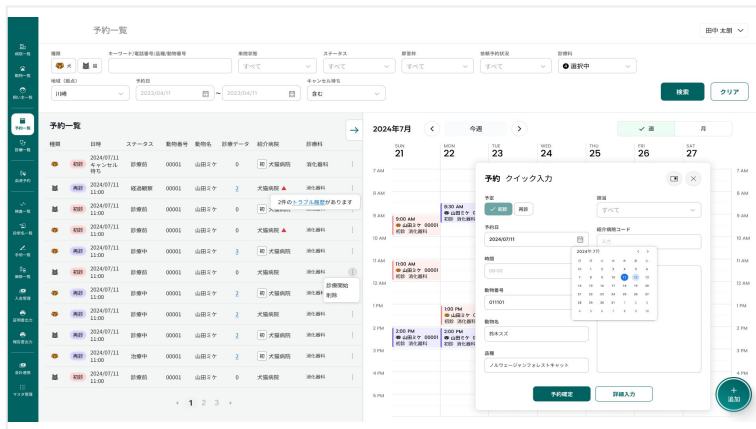
分析

設計

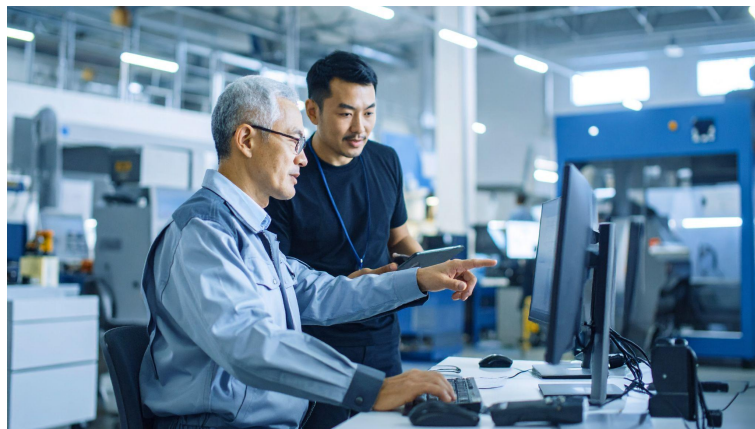
検証

プロトタイプを用いたユーザーテストで、使いやすさを徹底的に検証する

プロトタイプを現場ユーザーに試用してもらい、操作性や理解のしやすさ、業務との適合性などを多面的に評価します。いただいたフィードバックから、改善点や期待に応えるべき要素を抽出し、使いやすさを担保したUI/UXへと磨き上げていきます。開発前の段階で“現場で本当に使われる”プロダクトを目指し、システムの品質を高めていきます。



プロトタイプ



ユーザーテスト

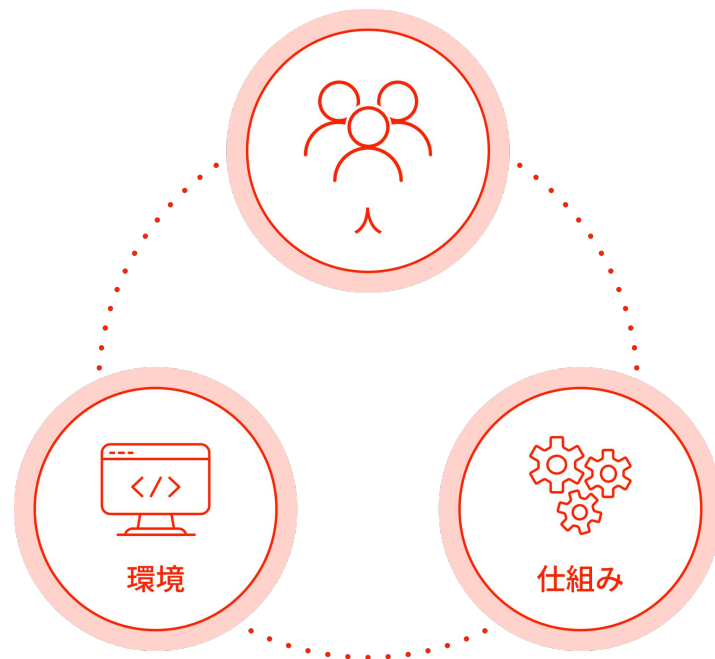
※ 貴社のチームやDX推進フェーズにより、提供サービスの内容や、プロジェクトのアサインする専門家をカスタマイズさせていただきます。

Dev*Ops

柔軟な体制、開発(Dev)・保守運用(Ops)の環境と仕組みを提供し、
高い技術・品質力でサービス価値をアップデートし続ける

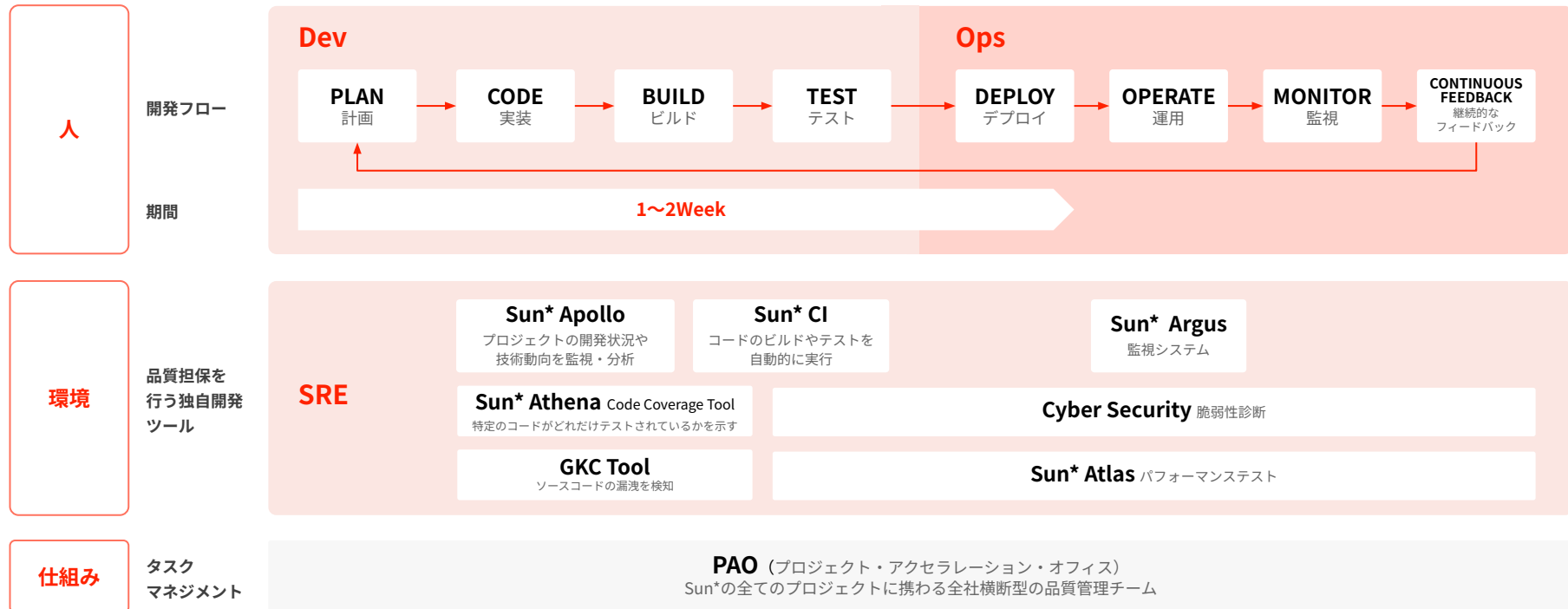
目まぐるしく変化するビジネス環境において、サービスを適切なタイミングで
ユーザーに届けるには、開発力だけでなく信頼性のあるシステムを迅速に
届け続けることが重要度を増しています。

Sun*はクライアントと共に、事業フェーズに最適な開発チームと環境を構築し、
高い技術と品質力でサービス価値をアップデートし続けるご支援をおこないます。



ソリューション全体像

開発・リリーススピードを上げながら、安定した品質を担保することが可能なSun*独自のDevOpsプロセスを、クライアントの課題やニーズに合わせて提供します。

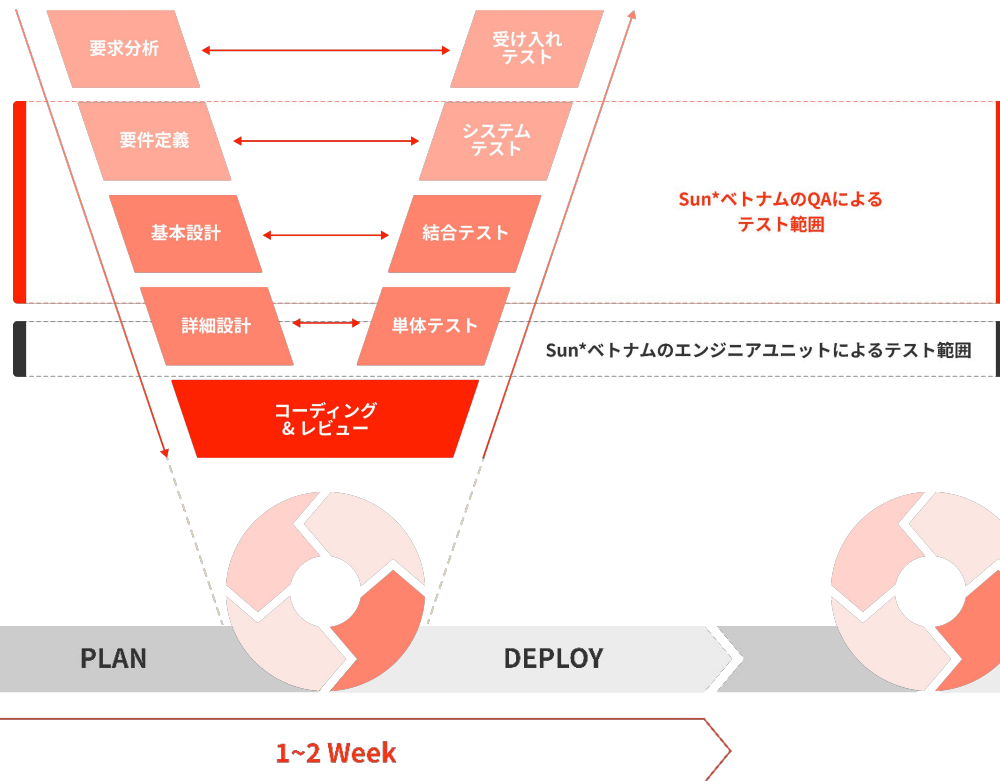


ソフトウェアの開発スキル(Dev)とシステム運用経験(Ops)の両方を持ち合わせた体制づくり

機能単位で小さくすばやく開発を繰り返し、ユーザーからのフィードバックやニーズを取り入れながらアップデートを繰り返す、アジャイルの思想を基本としています。

1つの開発サイクルでは、開発工程とテスト工程で各作業をリンクさせ、検証作業を効率よく実施するV字モデルを採用しています。

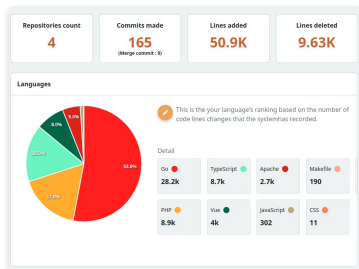
それにより、柔軟性・効率性を求めながらも確実な品質担保を可能にしています。



業務システムは、業務効率化の切り札として期待される一方で、その使い勝手の悪さが問題視されています。高額な費用と労力を投じてシステムを導入しても、使い勝手の問題から現場で十分に活用されず、期待した効果が得られないケースも少なくありません。

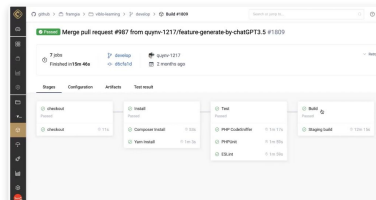
Sun* Apollo

プロジェクトの開発状況や
技術動向を監視・分析



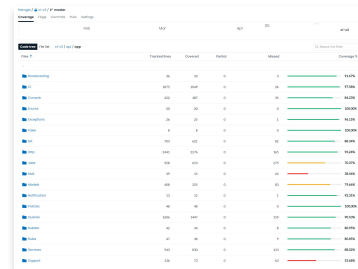
Sun* CI

コードのビルドやテスト、
セキュリティチェックを自動的に実行



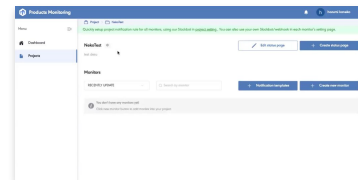
Sun* Athena Code Coverage Tool

特定のコードがどれだけ
テストされているかを示す



Sun* Argus

サイトが正常に動作しているか
プロダクトの監視システム



Sun*で運用しているDevOpsツール上での品質管理

Sun* Atlas

システムの信頼性、スケーラビリティ
効率性を実現する
パフォーマンステストツール

評価観点

- 様々なレベルのユーザートラフィックの処理
- ユーザーのリクエストに対する対応速度
- パフォーマンスの問題の早期検出とユーザー体験の向上

対応可能なテストの種類

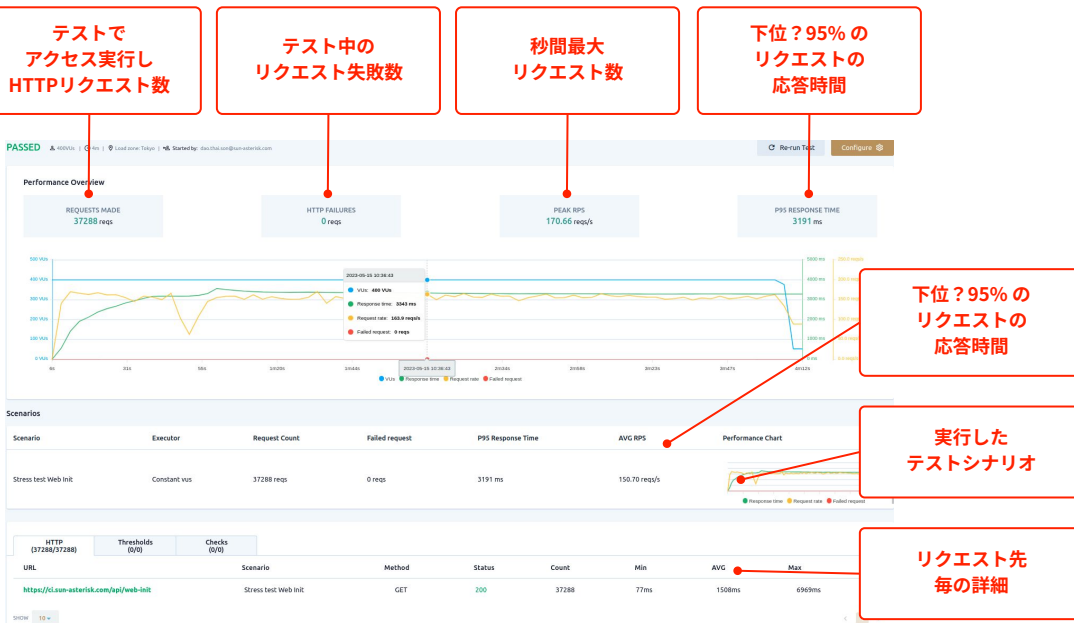
スモークテスト、負荷テスト、ストレステスト、
スパイクテスト、ソークテスト（エンデュランス
テスト）

パフォーマンステスト単体でのご相談も承っています。

サービス資料

： https://lp.sun-asterisk.com/hubfs/pdf/Sun* ATLAS PerformanceTesting.pdf

性能テスト結果のサンプル



Sun*で運用しているDevOpsツール上での品質管理

侵入テストと脆弱性診断から得た評価に対して、開発チームに解決策を指示し、リスクを未然に防ぎます。

Cyber Security Test

スプリント単位で継続的に診断し、リリースまでの時間を短縮しながらセキュリティリスクを未然に防ぐ



ペネトレーションテスト (侵入テスト)

模擬攻撃を実施してセキュリティを評価し、攻撃者が悪用する可能性のある脆弱性を見つけます



脆弱性評価

CVSSなどを基準にしたチェック項目で、脆弱性の検出とリスク評価を実施します



開発チームへの 指導

ペネトレーションテストと脆弱性診断で発見したリスクに対して、具体的な解決策を指導します

その他、社内外で行っている活動



脅威ハンティング

バグハンティング、インシデント調査、フォレンジック（消去されたデータも対象に操作ログを解析）を含みます



セキュリティ監査

Sun*内部のセキュリティが基準に適合しているかを測定し、情報システム・セキュリティの体系的評価を行います

脆弱性診断テスト単体でのご相談も承っています。サービス資料：[Sun* AgileCyberSecurityTest.pdf](#)

私たちが準拠している基準

EC Council



Offensive Security



International Cybersecurity Institute



獲得している認証



オープンウェブサ
イトセキュリティプ
ジェクト OWASP



オープンソース
セキュリティテ
スト OSSTMM



ペイメントカード
業界データセキュ
リティ基準
PCI-DSS



一般データ保護
規則 GDPR

品質管理チーム(PAO)によるDevOpsの持続的な開発品質の改善と向上

DevOpsの持続的な開発品質の改善と向上のために、品質管理チーム(PAO)は以下の取り組みを行っています。



インシデントを未然に 防ぐモニタリング

全社共通の管理シートで全てのプロジェクトを監視。バグの発生数に応じて即時検証を行い、インシデントを未然に防ぎます。



開発品質に関する カスタマーサーベイ

開発の品質やオペレーションについて、クライアントに年2回の匿名サーベイを実施。結果を基に業務フロー等を改善しています。



品質均一化のための テンプレート作成

プロジェクトキックオフ用の資料や機能のアップデート内容を記載するリリースノートをテンプレート化。プロジェクト品質を均一化します。



開発品質維持のための 社内教育

実際の開発や業務で必要となるナレッジを社内で蓄積。恒久的な開発品質維持のため、社内教育を徹底しています。

PAO（プロジェクト・アクセラレーション・オフィス）

Sun*のすべてのプロジェクトに横断的に関わり、グローバル開発におけるコミュニケーションや品質の課題に対して、包括的にプロセスの整備、評価の整理、人材の教育を行っているチーム

Our Works

顧客課題と弊社ソリューション



課題 | パッケージシステムをカスタマイズして利用していたが、ビジネス環境の変化に柔軟に適應できない。

解決 | ユーザー中心設計のスクラッチ開発で生産管理システムを再構築することで、ステークホルダー・経営・システム部門・現場にとって最適なシステムを導入。



課題 | 「物流の2024年問題。」によりトラックドライバーの時間外労働に上限が設けられた。また非常にタイトなスケジュールのため、

緻密なシステム構築方針策定能力と、スピード感を持った開発が必要。
解決 | 庫内作業負荷とドライバーの待機時間の削減を両立するスケジュール管理システムを導入し、トラックドライバーの業務効率化を実現。Sun*日本とベトナムの合同チームで、アジャイル開発の手法を用い、短納期且つ、ビジネス要件を押さえたシステム構築を実現。



課題 | 新規事業として「運送会社向けの配車支援サービス」を構築したいが超上流の支援から開発構築までを対応するリソースが不足していた。

解決 | Sun*のBTC（Business、Technology、Creative）機能を最大限に利用することで、サービスの立ち上がりからリリースまでの伴走支援。



課題 | トラック配送の予約/受付（バース管理）の開発を計画していたが、内製だけではスピード感の確保が困難。

解決 | コンサル機能と開発機能を持っているSun*の伴走支援。

産業用装置の設計・製造を行う
大手企業の製造部門

課題 | 全社の製造部門のDX計画策定にあたら、各地の工場の現状把握（AsIs）をする必要があるが、社内リソースが不足している。

解決 | Sun*UI/UXのデザイナーが、オンラインとオフラインで、現場をヒアリングし、業務フロー図を作成

世界一のりん青銅メーカーを目指す企業の挑戦：りん青銅が紡ぐデジタル革命

事業の中枢を担う生産管理システムのスクラッチ開発支援

1952年創業の原田伸銅所は、進化を続ける社会を「りん青銅」で支える中堅企業です。りん青銅は、人間の身体に例えるなら血管のような役割を果たす金属であり、スマートフォン、PC、電子機器やICカードなど、IT分野では欠かせない素材です。近年、5G通信を基盤とするIoTやEV車、自動運転の普及に伴い、需要が拡大しています。これまで製造管理の中枢を担っていたシステムは、既存のパッケージシステムをカスタマイズして対応していましたが、需要の拡大に伴い、生産の効率化と働き方改革を実現するためにシステムの刷新を決断。スクラッチによる開発を上流～下流まで、Sun*の日本とベトナムのチームが一気通貫で支援いたしました。

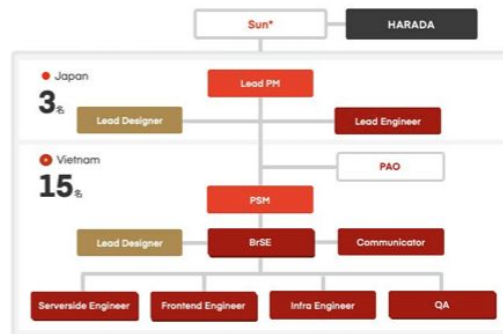
基本設計 開発実装 アジャイル開発 AWS DevOps UI/UXデザイン SMB 製造

ISSUE クライアントの課題

既存のパッケージシステムは、自社独自の受注生産型の業務フローに合わず、精緻な管理ができず、属人化しブラックボックス化していた。また、改修に時間がかかる課題も抱えていた。これらの課題に対して、生産性を高め、技術ノウハウを蓄積し、自動化が図れる独自のシステムを新規に構築したい。

SOLUTION 課題に対するSun*の対応

複雑で専門性の高い業務を理解するため、日本人メンバー全員で現地工場を訪問し、業務内容をしっかり把握したうえでシステムを設計。同時にデザイナーが要件をヒアリングし、モック画面をデザイン。ベトナムの開発チームも用語集を作成し、業務理解を深めつつ、機能の提案なども積極的に行った。



クライアントの声

『本気で課題に挑む人たちと、事業を通して社会にポジティブなアップデートを仕掛けていくこと』をミッションとするSun*さんは、企業の課題に対して真摯に耳を傾け、高い理解力と分析力、自らの都合に依らない適切な提案力を遺憾なく発揮してくれました。そのおかげで、難解な局面も無事に乗り切ることができました。また、開発期間中のビジネス変化にも迅速に対応いただき、期待以上のシステムが完成しました。ミッションを体現する人たちとの出会いに感謝しています。

物流の2024年問題、ドライバーの待機時間や労働環境を改善するDX

PULL型物流の実現に向けたWMS・TMSを機能補完するシステム化支援

トラックドライバーや運送業界にも働き方改革が適用されることで、物が運べなくなる可能性が生じるとされる「物流の2024年問題」。2024年4月からトラックドライバーの時間外労働の960時間上限規制と改正改善基準告示が適用されるなか、ダイキン工業社の配送センターにおいても、荷揃え待ちやバース開放待ちがセンターの業務都合でスケジュールが組まれていたため、無駄なドライバーの拘束時間が発生。これらを解消するために、庫内作業負荷とドライバー待機時間削減を両立するマスタースケジュールをつくり、庫内作業の進捗に合わせてドライバーを入場させるためのスケジュールを管理するシステムをSun*で開発支援いたしました。

基本設計

開発実装

PPA

アジャイル開発

DevOps

エンタープライズ

物流

Why? Sun* Sun*が選ばれた理由

時間に余裕がなかったため、アジャイル開発を活用し、スピーディに設計から開発、業務定着化の支援の実績があった点。
また、物流業界のシステム開発の経験のあるシステム設計者だけでなく、物流業務・オペレーションにも精通したメンバーがいたため、解像度が高く、未来を見据えた提案を行えたこと。

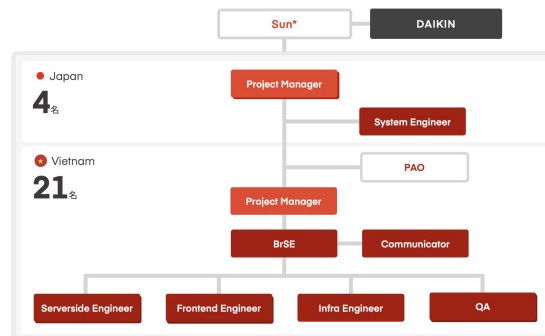
SOLUTION 課題に対するSun*の対応

基幹システムと連携してデータを授受する部分は通常開発工期がかかるため、暫定的にRPAツールを活用して機能を実現し、後のステップでAPIを連携。また、クラウドアーキテクチャに対するセキュリティ要件に対して、情報システム部門と密に連携しながらシステムを構築していった。



クライアントの声

『Sun*をパートナーとして選んだ理由は、同じ組織にデザイナーがいてUIに関する技術を持っていること、今回の物流システムと近い開発実績をお持ちだったこと、そしてスピードが感じられた点です。限られたスケジュールの中で、早期にキャッチアップし、プロジェクトを進行いただきました。また、予期せぬ開発にも迅速に対応していただき、弊社のビジネスに適した改善提案をしていただき、パートナーとして非常に信頼しています。』



ソフトバンク（株）と日本通運（株）の合併会社であるMeeTruck社の新規事業開発支援

配車業務をペーパーレス化し、 基幹配送業務のDXに向けた挑戦

MeeTruck社の創業事業となる「運送会社向け配車支援サービス」の立ち上げをSun*のUXチームが包括的に支援。ユーザーインサイトの抽出、サービス・ブランドデザイン、MVP開発、機動力が高い本開発推進など、プロジェクトの初期段階から事業開発に伴走。一体感あるチームで短期間のサービスインを実現。



事業共創

エンタープライズDX

ブランド設計

ユーザー中心設計

アジャイル

USER INSIGHT

BRAND DESIGN



ユーザーインサイトを抽出し、
ブランドデザイン・サービスデザインへ反映

PROTOTYPING/MVP



プロトタイピング・MVP開発を通して早期にユーザーからのFeedbackを獲得

APP DEVELOPMENT



開発チームのスケーラビリティを活かし、
柔軟でスピーディな本開発

PASSIONATE TEAM

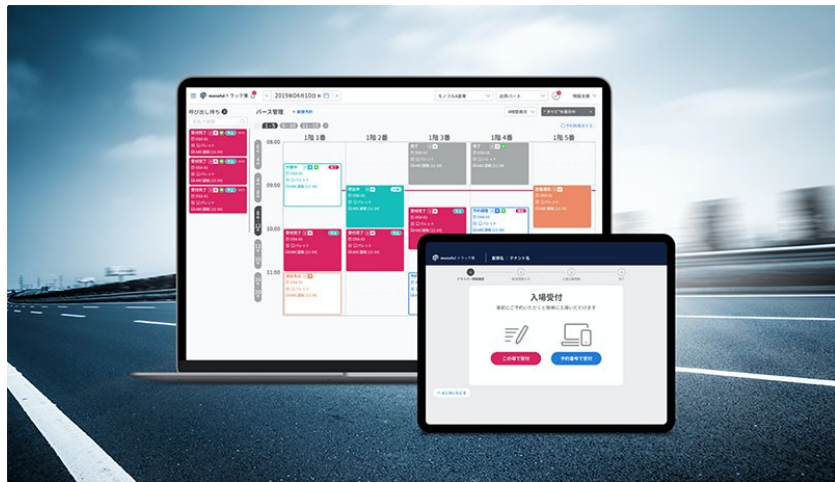


熱量あふれる顧客との一体感あるチーム

トラック配送の予約／受付（バース管理）サービス「トラック簿」の開発支援

物流業界を変革する 新規事業を半年で立ち上げ

世界有数の物流プラットフォームカンパニー、GLP(Global Logistic Properties)社のソフトウェア開発会社として立ち上がった株式会社モノフル。物流施設を利用するトラックの稼働効率を向上させる事を目的とした新規サービスの立ち上げを、事業企画からサービスの設計、開発までをクライアントとともに伴走。



共創型事業開発

ワークショップ

UI/UXデザイン

コンセプトメイキング

アプリ開発

Client Voice

「内製していたらこのスピード感は無理なので、そのフレキシビリティ・スケーラビリティはすごいと思います。相談がくるといったらいきなり形になっていたり、すごく助かりました。コンサル会社や大手SIerの要素を兼ね備えた開発会社って、なかなかないと思います。」

CTO SUPPORT



CTOの代理サポート。技術リードだけでなく、ビジネス面における企画からエンジニア採用までを支援

APP DEVELOPMENT



日本拠点とベトナム拠点で最適な開発チームを組成し、クライアントとともに、実装を伴走

RECRUITMENT SUPPORT



クライアントの自社内でも開発、運用を推進できるように、エンジニア組織の構築を採用面で支援

Appendix

デモンストレーション（生産管理システムの事例）

デモ画面作成の流れ

- 1 いただいた資料をもとに、画面に必要な情報を整理
- 2 ペルソナを整理
- 3 整理した内容を、画面に落とし込む

情報整理

ご提供資料や既存のエクセルファイルを参考にして、デモ画面を作成します。

実際のPJでは、貴社ご担当者様と議論を重ねながら、画面内の優先順位や重要なポイントを整理していきます。

プロジェクトスケジュール管理画面

製品 件名 検索 更新モード

担当者

工程 品番

スケジュール 更新

6月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
品番: 456-1231 案件名: 昇降椅台 発注番号: SN0022																													
発注内容の確認(大麦)						要件検討、設計(大麦)						組み立て(大麦・米田・小杉)																	
材料発注(米田)												加工(米田・小杉)																	
						請求書作成(臼井)																							
品番: 833-9834 案件名: 運搬車両 発注番号: US0098																													
発注内容の確認(三谷)						機械設計(高橋)						プレス(水上)																	
材料発注(水上)																													
品番: 984-2349 案件名: 電動車椅子 発注番号: AK0002																													
発注内容の確認(鈴木)						部品手配(鈴木)						全体設計(小高)																	
材料手配(鈴木)						加工(原田)						組み立て(原田)																	
品番: 112-8743 案件名: 介護ベッド 発注番号: KG0023																													
大麦	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h
米田	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h
臼井	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h
小杉	8h	8h	7h	9h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h	8h

この画面において、弊社が大事だと感じたポイント

- ユーザーの属性によっては、欲しい情報が異なるとされる
- 全ての情報を1画面に収めると、可読性が落ちて、欲しい情報を受け取りにくいのではないかと
- 検索機能により、案件を素早く見つけたいニーズがありそう
- 誰がいつ・何の作業を行うかを明確にし、進行状況を把握しやすい
- 作業の追加や必要工数の確認・管理を簡単にする
- 他社に依頼している工程も含め、案件全体を可視化したいのではないかと
- 各作業のステータスを明示し、進行の問題を早期に把握できること
- スケジュールの調整を柔軟に対応可能なインターフェースであること

ユーザーの理解

ご提供資料と合わせて、ユーザーにとって本当に使いやすいか、ヒアリングを通じて整理し、UI/UXに落とし込みます。
そのため、弊社では簡易ペルソナを作成し、ユーザーの解像度を高めた状態で画面を作成します。

Persona

ペルソナ (生産管理)



名前 高崎 公平
年齢 40歳
性別 男性
収入 600万円
移住地 神奈川県
勤務先 製造業 生産管理
在籍期間 16年

内面的

分析的

せっかち

リテラシー低

外向的

直感的

おっとり

リテラシー高

ITリテラシー

- ・エクセルの基本的な操作は可能。
- ・ショートカットやコピーにも可能。
- ・難しい操作や高度なITリテラシーはない

スケジュールの見たいポイント

- ・中期(3ヶ月~1年)
- ・量産立ち上げスケジュール
- ・設備導入計画
- ・短期(週~月単位)
- ・具体的な生産計画
- ・試作スケジュール、部品の納期

仕事内容

- ・生産計画をエクセルで管理している。
- ・進捗を確認し、納期を調整している。
- ・在庫を管理し、必要に応じて発注している。
- ・設計・調達・製造のスケジュールを全体調整。
- ・OEM・サプライヤーとの調整を行い、部品の遅延や生産能力不足を防ぐ。
- ・工場のキャパシティやリソースを見て、生産負荷を調整。

現在の環境・状態

- ・設計や製造のスケジュールに変更がある場合一ずつ修正対応している。
- ・生産管理の担当者は、納期管理やコスト削減に追われ、資材遅延や人手不足に対応しながら業務を進める。
- ・デジタル化が進む一方、現場調整やデータ活用が課題となり、柔軟な対応と効率化が求められている。

求めていること

- ・顧客からの指示通りの注文を滞りなく完遂したい。
- ・複数業務のスケジュールをわかりやすく確認したい。
- ・スムーズな動線・操作で簡単に管理を行いたい。

求めていること

- ・顧客からの指示通りの注文を滞りなく完遂したい
- ・複数業務のスケジュールをわかりやすく確認したい
- ・スムーズな動線・操作で簡単に管理を行いたい

Persona

ペルソナ (現場)



名前 古谷 幸太郎
年齢 30歳
性別 男性
収入 500万円
移住地 千葉県
勤務先 製造業 現場
在籍期間 7年

内面的

分析的

せっかち

リテラシー低

外向的

直感的

おっとり

リテラシー高

ITリテラシー

- ・エクセルの基本的な操作は可能。
- ・ショートカットやコピーにも可能。
- ・パソコンには慣れている。

期間

- ・短期(週~月単位)
- ・具体的な生産計画
- ・試作スケジュール、部品の納期
- ・超短期(日~シフト単位)
- ・量産立ち上げスケジュール
- ・設備導入計画

仕事内容

- ・生産作業：製品の組立、加工、検査、梱包などを行う。
- ・機械・設備の操作：生産設備を操作し、製造工程を進める。
- ・品質チェック：製品の寸法や外観を確認し、不良品を見分ける。
- ・材料・部品の供給：必要な材料や部品を準備し、工程に供給する。
- ・生産ラインの調整：トラブル発生時の対応や、工程の微調整を行う。

現在の環境・状態

- ・製造業の現場では、人手不足や納期の厳守、品質管理のプレッシャーが増大。
- ・自動化やデジタル化が進む一方、新技術の習得や現場対応の負担も大きい。
- ・効率化が進められ、柔軟な対応が必要な環境となっている。

求めていること

- ・担当作業に関わるスケジュールをわかりやすいこと
- ・具体的な作業スケジュールを想起しやすいこと
- ・スムーズな動線・操作で作業の完了登録などを行いたい

求めていること

- ・担当作業に関わるスケジュールをわかりやすいこと
- ・具体的な作業スケジュールを想起しやすいこと
- ・スムーズな動線・操作で作業の完了登録などを行いたい

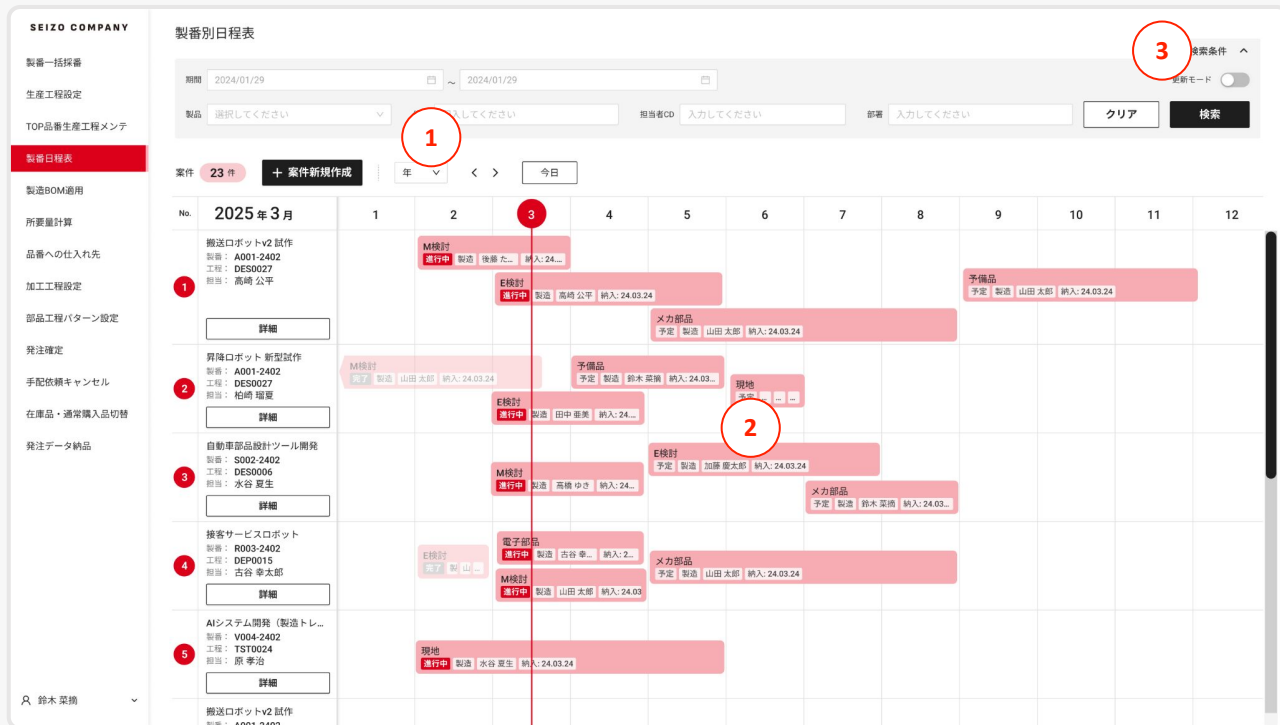
スケジュールの全体像を素早く把握し、進行管理の情報を直感的にインプットしやすいを心がけて作成します。



- 1 スケジュールの全体像を直感的に把握できるレイアウトを採用し、スムーズな確認をサポート。
- 2 案件のスケジュール追加ボタンを目立つ位置に配置し、操作の分かりやすさを強化。
- 3 必要な情報を最適な配置で整理し、進行管理のインプットがスムーズに行えるようにする。
- 4 ボタンやアクション要素の視認性を向上させ、操作ミスを最小限に抑制。

日程表一覧（サンプル）

生産管理者向けに、スケジュール全体を把握しやすい一覧と機能を提供いたします。

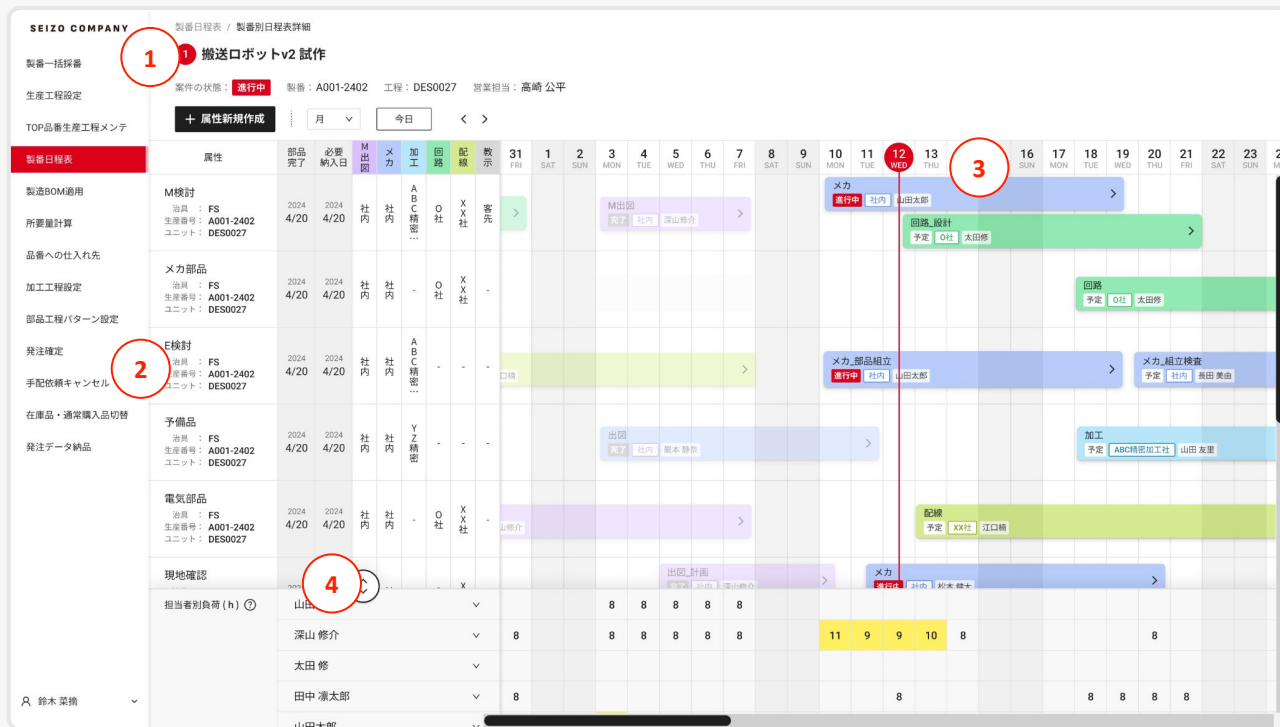


画面デザインのポイント

- 1 週・月・年単位の表示切り替えにより、短期・長期の計画を柔軟に管理。
- 2 年単位の表示に切り替えると、矢羽（アイコンや進捗表示）が小さくなるため、全体のスケジュール感を維持しつつ詳細を確認可能。
- 3 画面上部に検索条件を設け、特定の案件を素早く見つけられるよう設計。

日程表詳細（サンプル）

詳細画面では、現場の人が自身のスケジュールを把握しやすいように作成いたします。

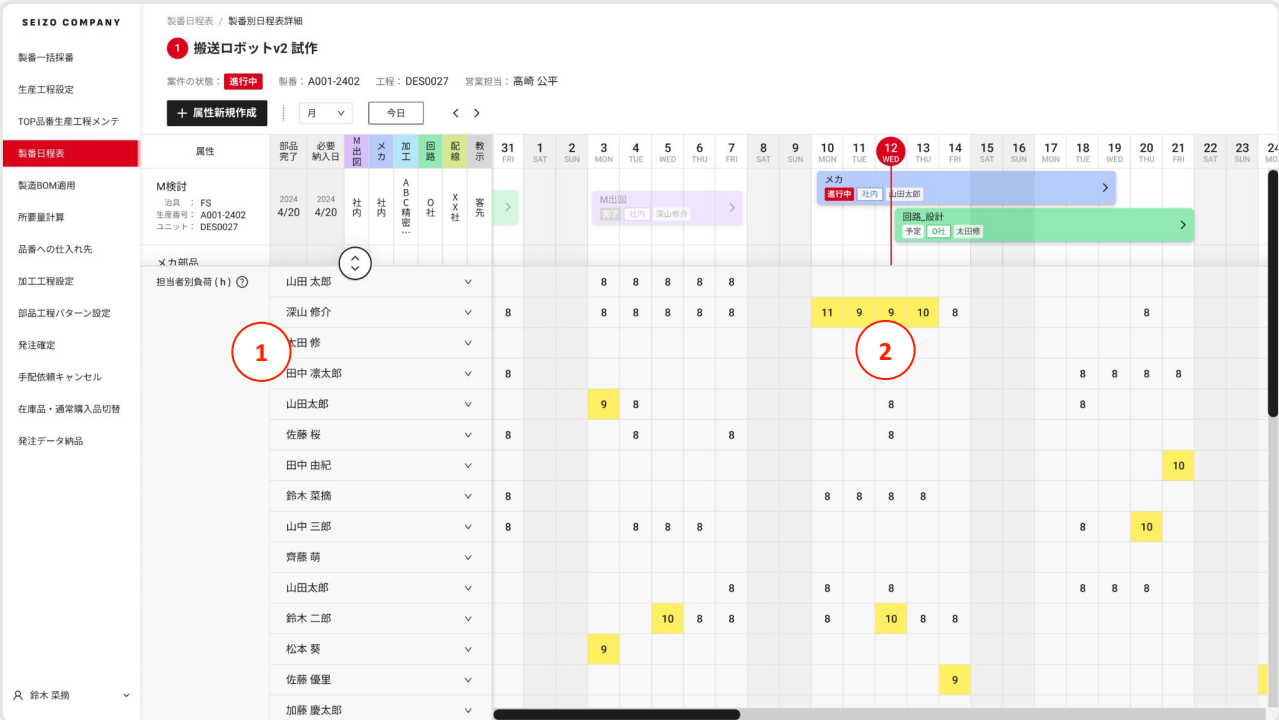


画面デザインのポイント

- 1 選択した案件の詳細スケジュールを確認でき、No.と紐付けて覚えやすく整理。
- 2 「誰が」「いつまでに」工程を遂行するのが把握でき、作業の前後関係や依存関係も視覚的に示し、全体の進行状況を簡単に理解できる。
- 3 工程を色分けし、社内外のスケジュールを直感的に識別できる。
- 4 担当者ごとの負荷は画面下で確認でき、より多くの人数を把握したい場合は、ドラッグ&ドロップで画面範囲を広げることができる。

日程表詳細（サンプル）

工数の調整を日付と紐付けて確認ができるように作成いたします。



画面デザインのポイント

- 1 担当者ごとの負荷やスケジュール調整をスムーズに行い、効率的な進捗管理をサポート。
- 2 プロジェクト全体のスケジュール調整や優先順位を明確にし、作業の円滑な進行を促進。

Thank you!